

科目名： コミュニケーション論		科目コード	GA34	
科目主査： 永山 祐輔		担当講師： 浅野 朋子、岩田 雅子、佐藤 明香、竹田 知子、角田 百合子、中村 菜津子、永山 祐輔、森 幸子	単位	2
授業の目的と概要		グループワーク： <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	個人ワーク： <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
現代の情報化社会では、モノや情報は足りていても、心が満たされるコミュニケーションがとれない、という状況が起きています。本科目では対人コミュニケーションに的を絞って、行動科学に基づいた実践的なコミュニケーションの方法について学習します。テキストの第1・2章では、コミュニケーションの基礎的理論を学習し、第3・4章では「交流分析」と「ソーシャル・スタイル」という実践的手法を用いて豊かな対人関係のあり方を学習します。				
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名：		
履修の前提となる知識 その他特記事項	初学者向けのスクーリングです。すでにアサーションや心理学などの科目を履修した方は、復習を兼ねて学んでいただきます。テキストを熟読し不明な点は授業で質問できるように準備してください。			
テキスト	『コミュニケーション』 宮城 まり子, 産業能率大学			
この科目の到達目標	①コミュニケーション論の基本概念や専門用語について理解し、説明することができる。 ②エゴグラム、ソーシャルスタイルの分析を通じ、客観的な指標を用いた自己・他者理解を行うことができる。 ③日常生活の対人コミュニケーションを理論的に振り返ることができる。			
成績評価の方法	①2日間のオンライン授業の受講姿勢 ②スクーリング初日に提示される課題の提出および内容 ③2日目の最終試験の成績 左記の3点から総合的に評価します。			
事後学習	スクーリングで得た「知識・気づき」を基に、交流分析の自我状態の理解および、ソーシャル・スタイルにおける4つのスタイルの行動特性を、社会活動や対人関係の場で応用して行ってください。			
事後学習の参考文献	『コミュニケーション入門』 船津 衛 有斐閣アルマ 2010年 『あなたの知らないあなたの強み』 古野俊幸 日経BP 2020年 『職場の人間関係は自己肯定感が9割』 工藤紀子 フォレスト出版 2019年			
スクーリング受講時に用意するもの <input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具（シャープペン、消しゴム、赤ペン、青ペン） <input checked="" type="checkbox"/> 定規（20cm程度） <input checked="" type="checkbox"/> カメラ・マイクは必須となります。				